

# きぬがさ

東近江市立能登川西小学校  
学校だより No.16  
令和2年(2020年)1月16日(金)

## 令和の年頭に思う～子どもたちがつくる未来～

武村 節子

令和の新しい年が始まり、半月が過ぎました。学校では、3学期の学習内容と共にそれぞれの学年の締めくくりに学習に励んでいます。それは、次の学年につなげる学習でもあります。

令和の「令」は冷たい印象、命令の令をイメージすると言われましたが、「令」の字の本質は、「自分自身を規律する自律性」にあります。整えるという大義にあるようです。



【3年生砂の遊び：写真は本文と関係ありません】

さて今年、小学校教育現場では、その自律性にふさわしい新学習指導要領完全実施を4月に控えています。過去の学校5日制の導入は、日米貿易摩擦（日本の貿易黒字）解消のための通商産業省主導であり、今回の目玉である英語学習やプログラミング教育は、経済産業省のからの後押しであるとの印象は否めないものの、これからの教育が、「いかに効率よく知識や技能を習得するか」でなく、「それらを駆使しながら自分の考えを持ち、論理的に組み立て適切に表現する力の育成」であることは明白です。

子どもたちがつくる未来を考えると、持続可能な未来という視点を外すことができません。このままでは、この美しい地球や豊かな社会を将来世代に引き継いでいけないという危機感が私たちにはあります。特に近年の気候変動は深刻です。スウェーデン出身の少女、グレタ・トゥーンベリさんが、国連のサミットで各国首脳へ怒りを込めてスピーチした姿は忘れられません。

子どもたちは、大人より真剣に考えています。地域の自然環境を守りたい、歴史・文化を大事にしたい。ごみは分別し、脱プラする。使い捨てはいけない、水や電気は節約する。子どもたちはいろいろなことに興味を持ちます。興味を持って調べたことや発信したことは、一生ものになる力になります。第2のグレタ・トゥーンベリさんがいろいろな国から出てくれることを願います。

国連では、SDG s（持続可能な開発目標）として17のゴールを2015年に採択しましたが、このままでは2030年までに目標を達成できそうにありません。学校教育こそ世界を変える原動力です。今年2020年から子どもたちが成人になっていくこの10年間のかがりとなります。子どもたちが、足元の課題に目を向け、自分のこととして考え、持続可能な未来を担う解決策やアイデアを出せるよう、それに向かって、たくましく成長してほしいと願っています。わたしたち大人もそれを根気強く待ってほしいと思います。

### 17のゴールとは



世界を変えるための17の目標



### SDG s =

持続可能な 開 発 目 標  
Sustainable Development Goals

2030年までに先進国も発達途上国も協力してこの世からあらゆる形態の貧困をなくし、経済・社会・環境のバランスを大事にして、後世につなげていくことのできる未来をつくらう、という17のゴールからなる世界目標。